

夏の過ごし方



オーストラリアで普及した日除けの一種で、90%近い日射を遮蔽する優れたものです。折りたたむので、オフシーズンの収納にも場所をとりません。

就寝時にはエアコンの運転を止め、扇風機で微風を送ります。



大小8枚のシェードネットを張り巡らし、可能な限り日射を遮蔽しています。四隅で固定しているので夕立程度ではビクともしませんが、さすがに台風の際には外しています。

2階

朝起きるとエアコンのスイッチを入れ、寝るときにスイッチを切りません。設定温度27℃で弱冷房運転しています。外出時にもスイッチは切りません。

スイッチを切るときは、1時間送風運転をしてエアコン内部を乾かしてやります。



冬と違い、湿度が上がってしまうのはマイナス要因です。そこで、除湿機を使って除湿します。

窓を開けないからでしょう。滅多に蚊に刺されることがないので殺虫剤はいっさい使いません。

1階

<p>温度と湿度</p>	<p>温度27～28℃、湿度60%台が快適に感じます。夜はエアコンの運転を止めるため湿度が70%を超えます。若干蒸し暑さを感じますが、睡眠が妨げられる程ではありません。</p>
<p>一番暑かったのは</p>	<p>熊谷市で40.9℃という日本最高気温が記録された当日、川一つ隔てた私の家の気温計は43℃を指していました。そんな日でも、FPの家の中はいつもと同じ室温でした。住みたての頃は留守中にエアコンを止め日除けもしていませんでしたが、この当時に室温が35℃まで上がってしまったことがあります。後にも先にも、これが最高記録です。</p>
<p>窓を開けない</p>	<p>当初は窓を開ける生活をしていましたが、あまり快適とはいえませんでした。そこで、暑くなった部屋を冷やす《冷房》という従来の発想から、暑くなるのを未然に防いで涼しい状態をキープする《保涼》という発想に切りかえて今日に至っています。</p>